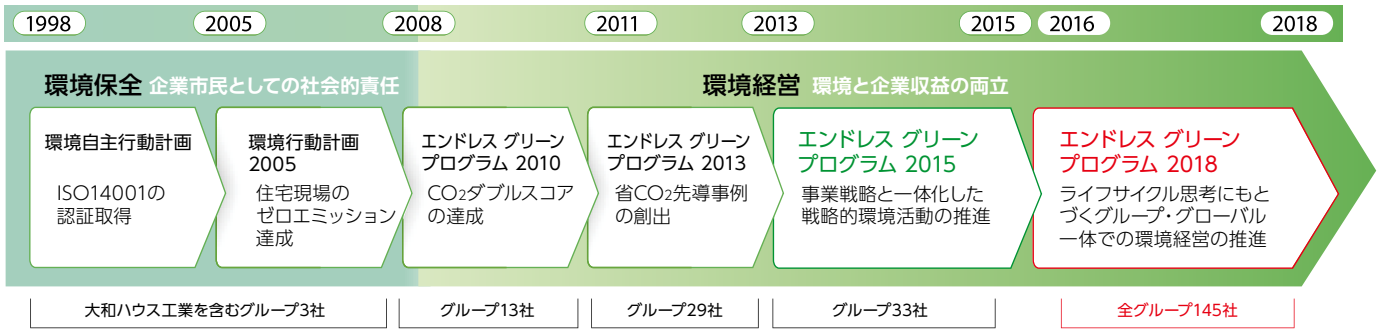
環境行動計画（エンドレス グリーン プログラム 2018）

大和ハウスグループでは、環境長期ビジョンの実現に向け、中期経営計画の対象期間に合わせて、およそ3ヵ年ごとに具体的な目標と計画を「エンドレス グリーン プログラム（EGP）」として策定し、活動を推進しています。

今回、新たに策定した2016～2018年度を対象とする「エンドレス グリーン プログラム 2018」では、「環境と企業収益の両立」に向けて、「ライフサイクル思考にもとづくグループ・グローバル一体での環境経営の推進」をコンセプトに環境への取り組みを加速させます。

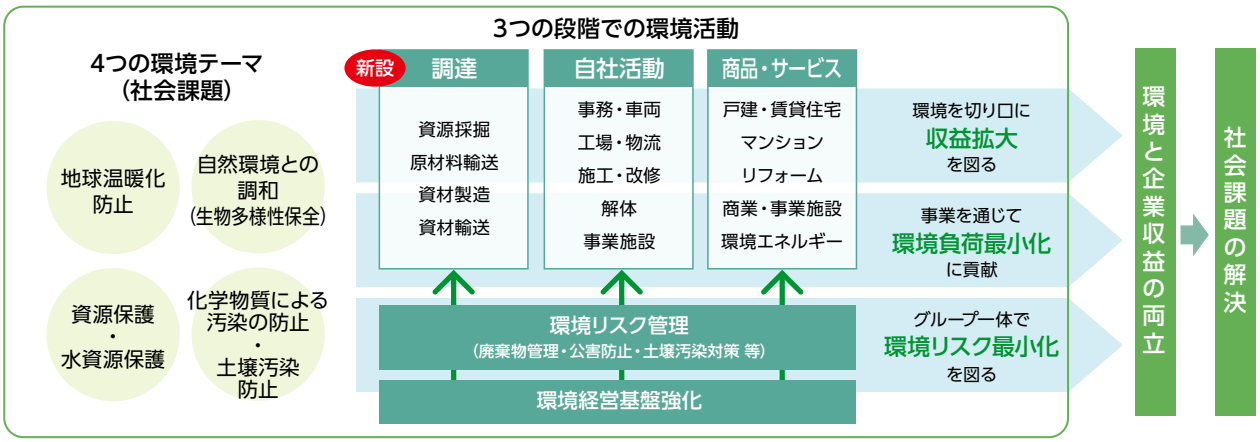
環境行動計画のあゆみ



当社グループでは、ステークホルダーの関心度及び事業との関連性が高い「4つの環境重点テーマ（社会課題）」を特定し、これらに対して「自社活動」、「商品・サービス」、「調達（新設）」の3つの段階において取り組みを進めます。

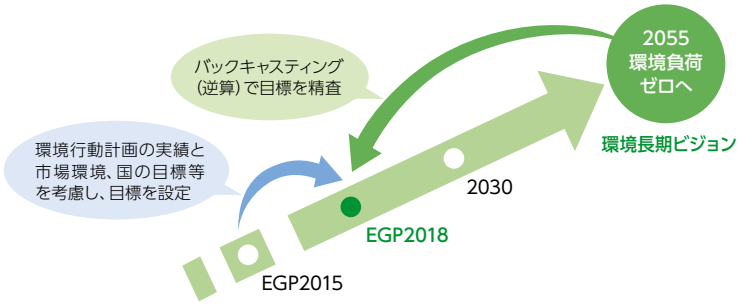
「自社活動」では、事業活動プロセスの各段階において施設・設備インフラの効率化と業務プロセスの革新により、省資源・省エネルギーで生産性の高いものづくりを推進し、環境負荷低減を図ります。また、「商品・サービス」では、環境に配慮した住宅・建築などの開発・普及を通じて、特に地球温暖化防止と生物多様性保全に向けた取り組みを強化します。さらに、新たな活動領域である「調達」では、環境負荷の低い原材料を調達することを目的に、お取引先との環境に関する方針の共有や改善活動の協働実施などを進めていきます。

環境行動計画の全体像



バックキャスティングによる目標設定

上記4つの重点テーマにおける目標設定にあたっては、当社の創業100周年にあたる2055年に目指すべき姿として策定した「環境長期ビジョン」からバックキャスティング（逆算）するとともに、2025～2030年にマイルストーンを置き、3年後の到達レベルを設定しました。



「エンドレス グリーン プログラム 2018」の基本方針

環境テーマ	段階	改善度	基本方針
地球温暖化防止	調達	着手	調達先における省エネ支援及び省エネ建材認定制度の構築
	自社活動	継続改善	新築施設のスマート化 既存施設の省エネ運用改善及び計画的な設備更新の継続
	商品・サービス	重点改善	エネルギーゼロの住宅・建築・街づくりの推進 再生可能エネルギー（風・太陽・水・バイオマス）による発電事業の拡大
自然環境との調和 （生物多様性保全）	調達	継続改善	持続可能な木材調達の推進
	自社活動	維持管理	自社・グループ施設における環境緑化の推進
	商品・サービス	重点改善	開発・街づくりにおける緑の保全・創出の推進
資源保護 水資源保護	調達	着手	主要建材における資源・水リスクの把握
	自社活動	継続改善（資） 維持管理（水）	建設廃棄物における3R（リデュース・リユース・リサイクル）活動の推進 節水器具の採用推進
	商品・サービス	継続改善（資） 維持管理（水）	資源循環型商品（高耐久・長寿命・省資源）の普及および再生建材の採用推進 節水器具の採用推進
化学物質による 汚染の防止 土壌汚染防止	調達	維持管理（化） 継続改善（土）	調達建材における化学物質管理の強化 土地購入時の土壌汚染リスク管理の強化
	自社活動	維持管理	生産段階におけるPRTR対象化学物質排出・移動量、VOC排出量の削減
	商品・サービス	継続改善	居住系施設における室内空気質のさらなる改善 土壌汚染対応ソリューションの拡充
環境経営基盤強化、環境リスク管理			グループ・グローバルにおける環境パフォーマンスデータの信頼性向上 グループ一体での環境法管理システムの構築・運用

「エンドレス グリーン プログラム 2018」の目標

環境テーマ	指標		EGP2018 2015実績	EGP2018 2018目標	環境長期ビジョン 2030	環境長期ビジョン 2055
地球温暖化防止	売上高あたりCO_2排出量<2005年度比>		▲50%※	▲53%	売上高あたりCO_2排出量を2005年度比で▲67%	売上高あたりCO_2排出量を2005年度比で▲80% ↓ CO_2排出量のネット・ゼロ
	CO_2排出量<2005年度比>		▲30%※	▲33%		
	購入電力量における再生可能エネルギー発電割合		37%※	50%	購入電力量を上回る再生可能エネルギー発電	
	CO_2削減貢献量		370万t※	390万t	新築建物の使用時CO_2排出量のネット・ゼロ（戸建2025、建築2030）	CO_2排出ゼロの街づくり
自然環境との調和（生物多様性保全）	調達木材におけるCランク木材比率		4.7%	0%	住宅・建築物の建材において木材調達による森林破壊ゼロ	全事業において材料調達による森林破壊ゼロ
	緑被面積		724千㎡	910千㎡	緑被面積の拡大	緑のノーネットロス（緑の喪失≦緑の創出）
	生物多様性自主基準適合率（開発）		100%	100%	緑の喪失量の把握	
資源保護 水資源保護	建設廃棄物排出量（生産）<2012年度比>		▲9.3%	▲14.0%	住宅・建築物のライフサイクルにおける廃棄物のゼロエミッション	全事業において廃棄物のゼロエミッション
	建設廃棄物排出量（新築）<2012年度比>		▲19.5%	▲15.0%		
	リサイクル率	生産	98.7%	95%以上		
		新築	93.5%			
		土木	99.3%			
		解体	96.5%			
		改修	78.7%	85%以上		
	売上高あたり水使用量<2012年度比>		▲26.8%	▲30%		
	長期優良住宅認定率		89.9%	90%		
	システム建築採用率		48%	60%		
化学物質による 汚染の防止 土壌汚染防止	PRTR対象化学物質排出・移動量<2012年度比>		▲39.5%※	▲40%	リスクの最小化（ゼロ）	
	VOC排出量<2013年度比>		▲12.8%※	▲7%		
	居住系施設における室内空気質自主基準達成率		68%	100%以上		
	土地購入時における土壌汚染重大リスク		ゼロ	ゼロ		
環境経営基盤強化 環境リスク管理	グループ・グローバルにおける環境パフォーマンスデータの信頼性向上					
	グループ一体での環境法管理システムの構築・運用					

※EGP2015とEGP2018では、算定方法・対象範囲・基準年度が異なるため、EGP2015の2015年度実績と差異があります。